



中央検査部だより



2021年1月吉日発行 第74号

新年のご挨拶

中央検査部 部長 上田一之

新年明けましておめでとうございます。皆様はこの年末年始をいかがお過ごしでしたでしょうか。私はといえば酒と映画の日々でだらだらと無為な連休でした。心機一転ダイエットにいそまねばと考えています。マスクにもすっかり慣れて、忘れたときにはなんだか裸で歩いているような気分になってしまうこの頃です。ワクチンの開発も進みそろそろ実用化されそうで、暗かった日々的一点の明かりが見えたような気持ちですがまだまだ気を緩めてはいられません。

さて我が中央検査部では今年度内にエコーセンターを本格稼働すべく全病院的に調整を行っているところです。稼働開始となれば画像診断の分野での更なる飛躍が期待されます。

本年も愛される検査部をモットーにがんばります。どうぞよろしくお願いします。

今年もまた検査部が面白く目が離せない！



採血時の注意点 ～規定量採血～

規定量採血に関して、重要な注意点を2つご説明したいと思います。

① 規定量採血が必要な採血管

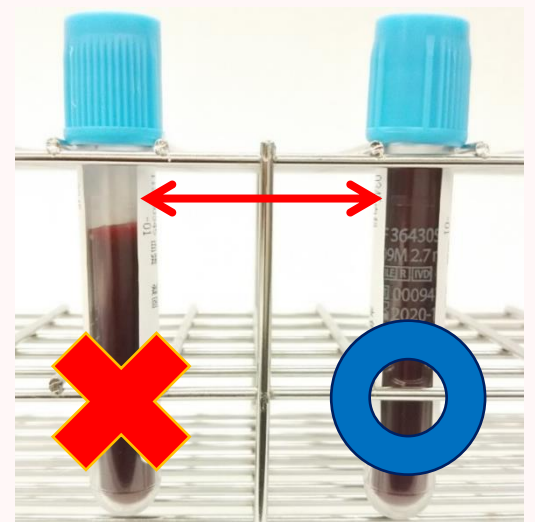
採血管の種類によっては検査項目や種類によらず、規定量の採血が必要なものがあります。

頻度が高いものでは凝固検査用の『水色』採血管があります。採血管の上部に少々見えにくいですがラインが引いてあり、水色採血管ではこのライン以上に血液が採れていないと検査が出来ません。

他にも血沈検査用の『橙色』採血管をはじめ、規定量採血が求められるものがあります。それぞれ採血条件などご確認をお願いします。

② 翼状針採血時のダミー採血

採血器具によっても注意が必要です。翼状針を用いる場合にはチューブ内の空気分だけ血液が入らなくなりますので、上記①のような採血管を採る前にはチューブ内の空気を抜くダミー採血が必要となります。



規定量採血の説明を簡単にさせて頂きましたが、検査項目や種類によって必要な採血量は様々です。ご不明な点があれば、中央検査部までご連絡ください。(内線：501)



ALP LD の測定方法が変わります



アルカリフォスファターゼ(ALP)と乳酸デヒドロゲナーゼ(LD)測定法を JSCC 法から IFCC 法へ変更します。国際的な標準化が主な理由です。JSCC 法は日本国内では約 98%の施設が採用している方法ですが、海外では IFCC 法が主流です。このため、国際的な学会発表・大規模治験の際は、JSCC 法では採用されず、IFCC 法で測定し直すなどの対応を行って来ました。

ALP と LD の方法間の違いについて表にまとめました。**ALP は、測定値が JSCC 法と比較して約 1/3** になるため、IFCC 移行後 2 ヶ月間は JSCC 法の換算値を併記し報告させていただきます。基準範囲も表のとおりに変更いたします。**LD はアイソザイムの反応性は異なるものの、測定値はほぼ同じ**ことから基準範囲の変更はありません。

JSCC 法から IFCC 法への移行期間は、2020 年 4 月から 1 年間の予定です。しばらくは、全国で JSCC 法と IFCC 法が混在する期間があります。ご迷惑をおかけしますが、何か不明な点がありましたら、検査室(内線: 387・388)までお問い合わせください。

※JSCC: 日本臨床化学会、IFCC: 国際臨床化学連合

変更日時: 2021 年 1 月 6 日(水) 報告分より

ALP	新: IFCC	旧: JSCC
緩衝液	AMP (pH: 10.2)	EAE (pH: 9.9)
アイソザイム反応性 (JSCC 法と比較)	胎盤型 ALP 上昇 小腸型 ALP 低下	

LD	新: IFCC	旧: JSCC
緩衝液	NMG (pH: 9.4)	DEA (pH: 8.8)
アイソザイム反応性 (JSCC 法と比較)	LD5 低下	

報告内容変更

項目名 (単位: U/L)	基準範囲		表記	
	新: IFCC	旧: JSCC	IFCC 法(新)	従来法換算値
ALP	38—113	106—322	ALP (IFCC)	ALP (JS 法)
LD	124—222		LD (IFCC)	

腎臓内科と循環器内科で 24 時間血圧計の運用を開始しました

24 時間定期的に血圧を自動測定することで

- ・お仕事中等、ストレスを受けている時に血圧が上昇していないか?
- ・お身体が休まる睡眠時に血圧がきちんと下がっているか?
- ・起床時に急激な血圧の上昇傾向がないか? などがわかります。



この検査を行うことで、運動療法・食事療法・血圧のお薬が必要かどうか、その効果を確認する事が出来ます。

問い合わせ: 生理機能室 (内線 513)